

みすず あおしま せんじゃまいり
美篤青島の千社参り

水害を鎮めるお札を貼り歩く

伊那市美篤青島区で続く年中行事。毎年、土用入りの7月20日前後の日曜日に全戸が参加して行われる。諏訪社で神事を行った後、隣組の組長がくじ引きをして担当地区を決め、「千社参り」と刷られた千枚のお札を市内各地の寺社や石造物に奉納する。青島区は江戸時代から三峰川の氾濫に苦慮してきた歴史があり、その水害に対する鎮魂の願いがこの行事の発端及び継続の一因と推定される。



諏訪社で祈願を行い、千社参りが始まる

1969(昭和44)年に、青島区長より青島堤防の改修促進の「陳情書」が提出された。その中には、区民が毎年千社参りを行い安全を祈願していることにも触れられていた。当時の工事事務所長は心を打たれ、ただちに現場視察を行い、改修工事が計画・実施された。千社参りに託された悲願の真心が通じたものと信じられている。



貼られた千社札



たび重なる大水害をなんとか鎮めようと、1662(寛文2)年に、諏訪明神を勧請し、この明神様を拠り所として全区民一体となって「千社参り」を考えつき、毎年欠かさず行うことを習わしとするようになった。古老の話では、明治の初め頃にはすでに行事化していたと思われる。戦時中、男性がいなかった時代でも、老人、女性、子供まで参加し、休むことなく続けられ、地域内のつながりも深まっている。



昭和47年から作られている千社参りのお札

information

□ アクセス
(諏訪社)
伊那ICから15km
車→30分

□ 所在地
伊那市美篤



(国土地理院の数値地図25000地図画像)を使用